〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
TEL：(03)5632-4439　FAX：(03)5632-4464
E-mail：info@caritas.jp　URL：https://www.caritas.jp

カリタスジャパン 能登地震災害緊急支援募金 ご報告 2025年7月

■ 能登半島地震災害緊急支援募金（2月～6月）

期間	募金額（円）	募金件数
2月1日～28日	3,739,456	58
3月1日～31日	9,849,927	71
4月1日～30日	1,481,634	31
5月1日～31日	727,080	17
6月1日～30日	975,366	26
計	16,773,463	203

2025年2月-2025年6月募金･援助

募金額　16,773,463円　(203件)
援助額　17,591,007円　(3件)

■ 援助額（2月～6月）

援助先	活動	援助額（円）
カトリック名古屋教区カリタスのとサポートセンター	2025年度「令和6年能登半島地震」被災地支援活動 七尾ベースを拠点に七尾地域、輪島地域への支援活動を行っている。七尾地区ではじんのびカフェ、出張カフェの継続と七尾市社会福祉協議会、民間ボランティアセンターとの連携による活動を継続。公費解体予定住宅の片付けやカフェの実施など多分野における共同支援活動を実施する。 輪島では空熊、糸作地区等孤立集落への飲料水、物資の配布と重蔵神社での配布会準備や寄贈品の仕分けとともに、被災した重蔵神社の片付、輪島社会福祉協議会の依頼によるカフェ活動等を実施。カトリック輪島教会が2025年8月頃をめどに再建されることになり、輪島教会にもベース機能が加わり、今後輪島地区への支援活動範囲も社会福祉協議会や民間ボランティア団体等との連携を持ちながら活動を拡大予定。	9,586,900
カトリック名古屋教区	2025年度「令和6年　能登半島地震」被災地支援　カリタスのとサポートセンター組織強化申請 カリタスのとサポートセンターが行っている活動を専従スタッフとして行う。 業務としては、ベースの運営、ボランティアの調整、活動の開拓、調整など。 今年度、男性1名を採用し、羽咋ベースに常駐する。シスターズリレーを1名の派遣にし、ベースの管理とボランティアの夕食の準備を行ってもらうために、シスター1名を常駐スタッフとして採用する。	7,004,107
一般社団震災復興子ども支援	石川県輪島市町野町震災復旧・被災地支援事業2025年 農業復興プロジェクト；田畑に流れ込んだ大量の石を、ボランティアと住民の方を取り除く。 心身のケアプロジェクト；整体ボランティアや足湯ボランティア、またコンサートやカラオケ会など避難生活の疲れに寄り添う支援。 復興祭りプロジェクト；輪島を離れ避難されている方々が、地元に帰省できるようなお祭りを町野町復興プロジェクトと企画。 キリコ祭りプロジェクト；今年は町野町より正式に、伝統的キリコ祭りへの応援 ボランティア受け入れ事業；旧民宿を宿泊拠点として提供すべく運営を行う他、受け入れたボランティアの活動場所・空港等の送迎を行う。	1,000,000
	合計	17,591,007

■ 活動写真（写真はすべて©カリタスジャパン）

被災したカトリック輪島教会も新たにボランティアセンター機能と宿泊機能を兼ね備えて、完成間近です。七尾ベース、羽咋ベースに加えて、新たなベースとして、今後より一層、輪島市社会福祉協議会とのボランティア活動の連携が深まると共に、地域に対する寄り添い体制が充実します。孤立している被災者の訪問見守りや、応急仮設住宅でのコミュニティ形成など課題は山積みです。

©カリタスジャパン 完成間近のカトリック輪島教会

カリタスジャパンに届いたお便りのご紹介

拝啓

ごめんください。千葉県四街道市に住む[redacted]と申します。石川県輪島市の僻地の実家で独り暮らしをしている８３歳の母のことで、カリタスジャパンの皆様にぜひお礼を申し上げたく長文をお許しください。

実家のある[redacted]市街地から１２㌔の山間部にあります。主要道が地震と水害で道路が不通となったため、今は崩れかけた約２０㌔の道を迂回しないとたどりつきません。電気は復旧しましたが、電話は不通のまま、郵便配達も秋に復活しましたが週に一度のみ、宅配便は今も配達を中止したままです。集落では壊れた家を解体して転居する人が相次ぎ、人口は半減しました。残った人たちも１２月には次々に仮設住宅に入居し、仮設への入居を心待ちにしていた母は集落で１人になってしましました。私は毎月車で通っていましたが、やはりせいぜい月に１回がやっと。だれもいなくなった集落で、救急車さえ来てくれるかどうか分からない山の中で母は果たして暮らしていけるのだろうかと心配でなりませんでした。

ところがそんな中、毎週、母を訪ねてくださる方々がいらっしゃいました。カリタスジャパンのシスターの皆様方です。１１月から毎週末、危険な山道を、しかも多いときは一伝近くの積雪の中、吹雪の中、母のために食料や水を届けていただいて下さいました。

１人では買い物にも行けません。物資を届けていただくだけでもどれだけ助かるか、お礼の申し上げようがございませんのに、シスターの皆様は、それでなくても日々の奉仕活動でお疲れの中、毎回母の話相手になってくださいます。畳替えや重い家具の移動、泥出しなどの重労働もいとわず進んでやってくださいます。自宅が半壊し、運転もしなくなり、すっかり気落ちして自信をなくしていた母が、皆様にお会いする回数を重ねるたびに、明らかに明るく前向きに変わっていくのが分かりました。人とのつながりによって、人はこんなにも変われるんだなとおおげさではなく感動しました。実際、訪れる人もほぼいない真冬の山奥まで毎週定期的に訪ねてくれる方々がいるということが、どれほど心強かったか分かりません。

北陸も、ようやく春を迎えました。母が無事に冬を乗り越えられたのは、おおげさではなく、間違いなく皆様のおかげです。私も実家が地震に遭ってからがっかりすることや悲しくなることばかりでしたが、明るくなった母を見て、地震は非常に不幸な経験だったけれど、皆さんとご縁ができたのだからいいこともあったと思えるようになりました。カリタスジャパンさんのホームページを拝見しました。その使命として「人間の尊厳を尊重する社会を創りだす活動への協力を惜しまずに行います」とうたっているのを読んで納得しました。皆様の活動を目の当たりにして、本当に頭が下がる思いでおります。

末筆となりましたが、カリタスジャパン様、シスターの皆様の益々のご健勝を心から祈っています。皆様に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございます。

敬具

※ご本人様から許可をいただき掲載いたしました。

引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

郵便局の専用払込用紙（送金手数料カリタスジャパン負担）をご希望のかたは、電話(03-5632-4439）あるいはメール（info@caritas.jp）にて事務局までご連絡ください。